

R18
Adult Only



鶴丸国永×女審神者 Series no.6

あなたさまに一目逢いたくて
この死の間際 私は彷徨つた

この穢れた身で今さら
過ぎた願いだというのは
百も承知

だけど私は
忘れられないのです

名を呼ぶと嬉しそうに笑う
その御姿が

私の

白い

綺麗な神様

この身が
人でなけ
良かつたのれ
にば



さるま...

国永

鶴丸

呼んだかい？

もうじき夕餉だから
呼びに来たんだが
寝ていたのか

行けるか？

は

顔が腫れて
しまうぞ

今
行きます！

すみません私
寝ぼけて

はんっす

おいおい







鶴丸国永の私を見る視線が

遠くを見るようにな
変わってしまったのだろう

私は
それが怖い

恋を跡は
転ぶ馬は

先日私の本丸の結界に外部からの干渉があり事態が解決するまでの数日間は外出禁止となつた

役目である出陣も叶わずにいたが解決後は思つたよりすみやかに稼働を開始した

敵は待つてくれないからである

第一部隊帰還だ
大将！



お帰りなさい
なにか異変はありませんでしたか

もー池田屋の槍
ほんつと腹立つ！

スカート
破けちゃった！

俺のいない間
こつちはどうだった

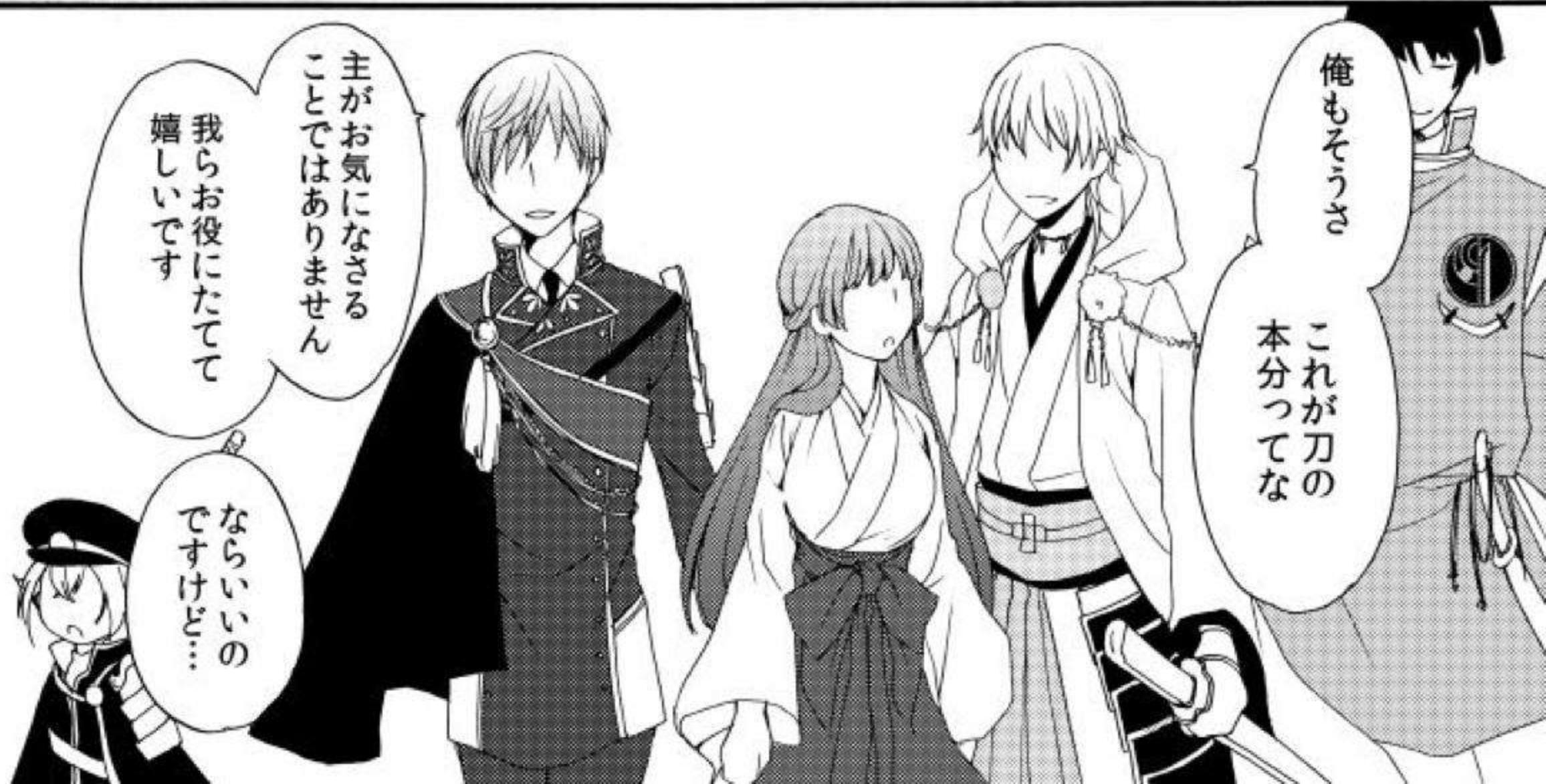
…攻撃のことだよ？

性急だよねえ

みんな無事で良かった

お疲れ様です

ああ何ともない
渡航解除すぐに
出して貰えて滾ってる所だ
何かあつたらすぐ気付く



気にするな

…そう厚桜山の転移位置に
見事な女郎花の群生地があつてな

持つて帰つてきてやろうか

好きみ
好きだろう?

鶴丸殿

花とはいえあまり
時間を越えたものを
持ち帰るのは

行くよー

まあそーか

それじゃ
行つて来るぜ



ああそー

あ

…主は妙なお顔を
されていましたな
本当に
女郎花の花が
お好きなのですか

ドヤリ

きみ
するくないか!?

他にも色々お教え
しましようか?

幼少より
お好きな花は
紫陽花

というかきみ
鋭いな!

主のことは兄君より
良く聞いています

あー...
しまつた

やはり...
あまり
いい加減なこと
言わんて下さい

お聞き
でしたかつたん
一度

そうだな

今にして思えば
どうしてあんなにも
俺の傍を回つていって
くれたんだろう

...



鶴丸殿は一体
いつの世で主を
見初められたのです
生まれた時より
印があつたとすれば
今生ではないの
でしょ?

答えになつて
ませんぞ

なあ

ただあの時は戯れに
声を聞いてくれたら
良かつたのに

俺は彼女の運命を
変えてしまつたのかも
さがため
しれない

やつぱり鶴丸は
最近変だ

あのときも

もや

もや

もや

躊躇とか竜胆とか
他に色々くれたのに
何故女郎花

女郎花…
話に出たことすら
なかつたような…

「そうか
きみだった」



「俺がどれだけ
待つたと思ってる」

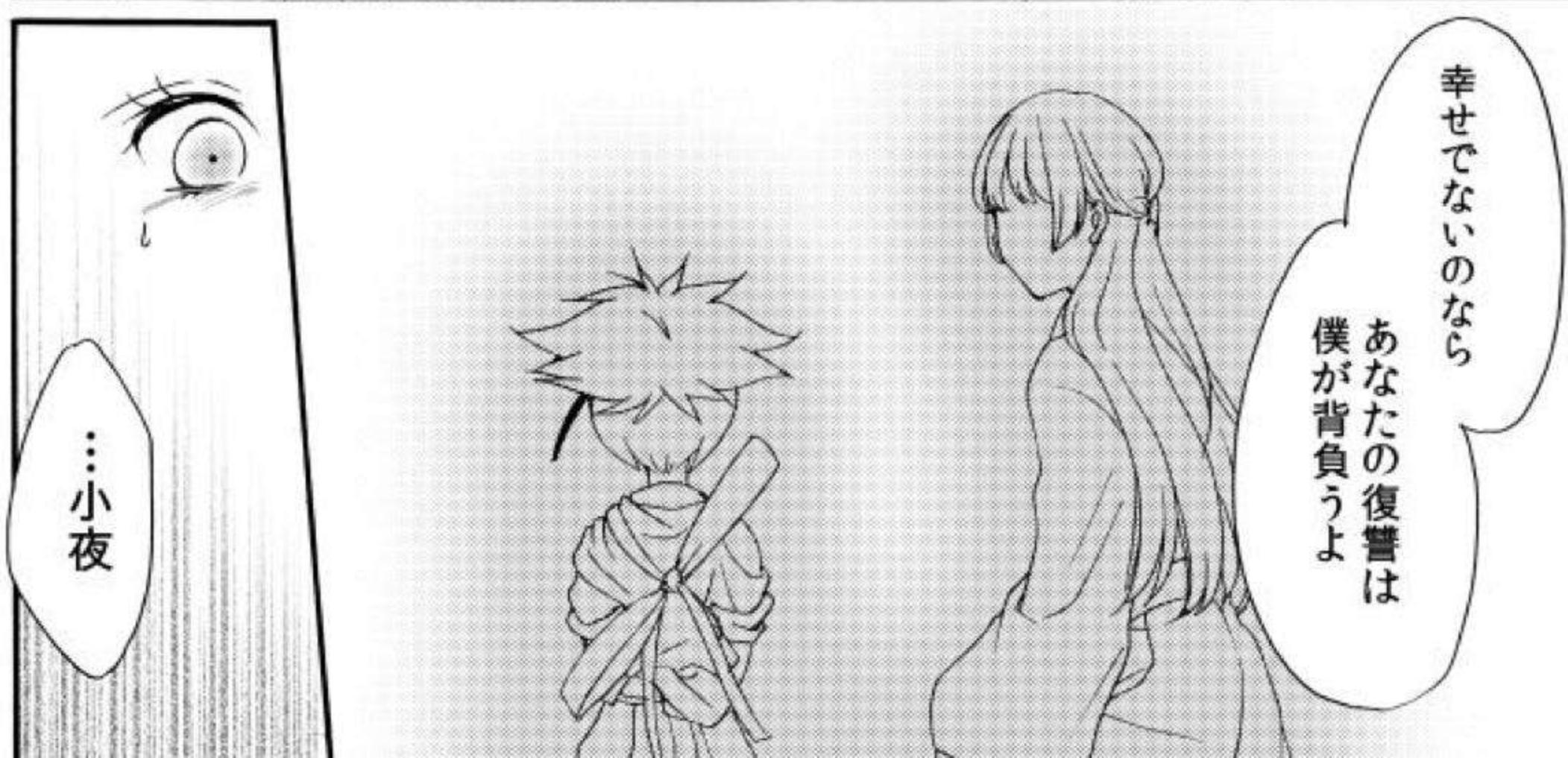
思つたけど
理由を聞こうと
聞きそびれて…

「待ちくたびれた」

「遅いじゃないか」







兄様のことは
もういいの

なんでもないの…

なんて

優しくて
恐ろしいことを
言わせて
しまったんだろう

心のつかえを
見抜かれた
気がした

私

仕事
終わつて
ないもの
この後
長谷部が報告に
来るんですよ

きみと長谷部の
組み合わせは
厄介だな

際限なく仕事を
していそぐだ

…そんなこと
言つても
根詰めてないか
心配になるし
第一何もできない
じやないか

思い出したの

おいもー
夜中だぜ

…ん

…つ

…だ

ダメです！





鶴丸は神様で
見ているものが
違うのは当然で

仕事中です
失敗はできない
暫くあなたのこと
考えたくない
この恋の終わりはいつか
必ずやってくるって
知っているのに

私
欲張りになっていたの

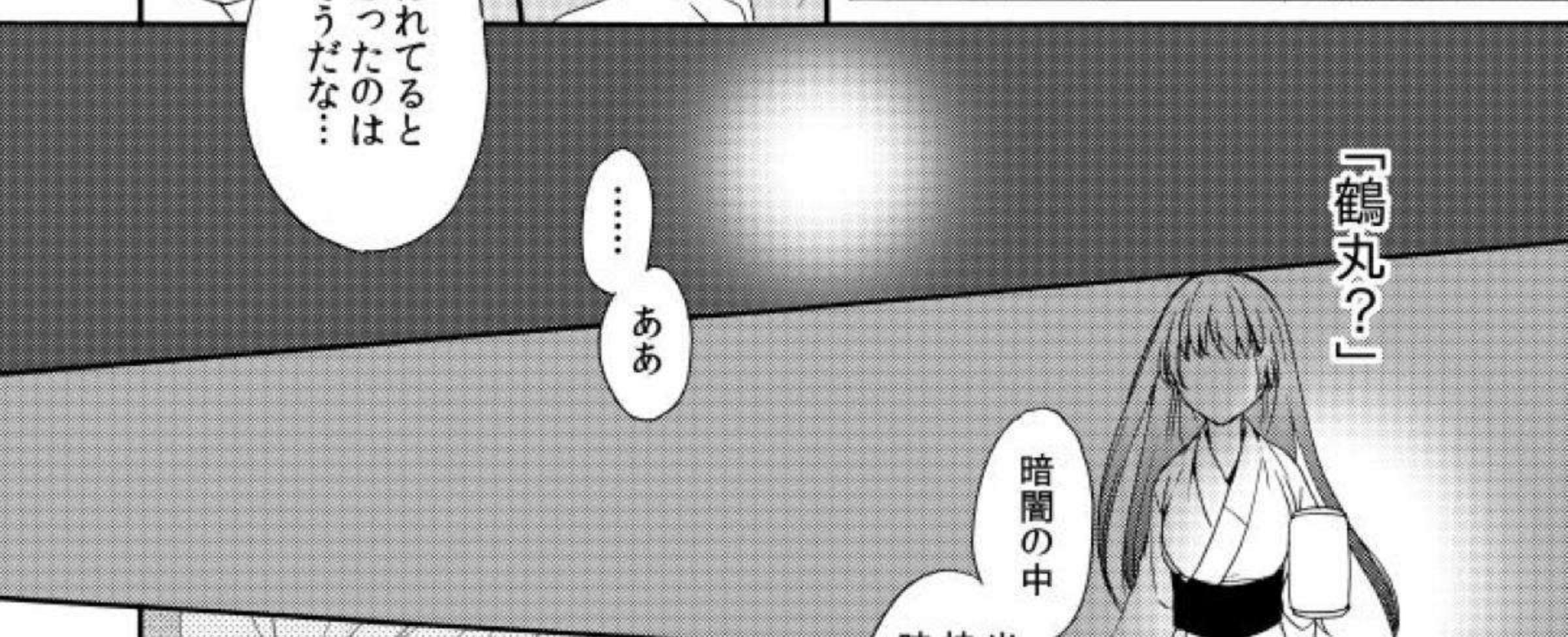












鶴丸さんて

あの頃から主が
好きだつたの？

なんだ突然

『鶴丸？』

その手のぬくもりで
俺は今
己の前にいるのだと
示してくれた

変な
気分だつた

安心するような
高揚するような
幸福なような

「こんな夜中に
明かりも持たずに
どうしたの」

俺はきっと
二度は同じ気持ちにならないだろう

だが代え難い
幸福だ

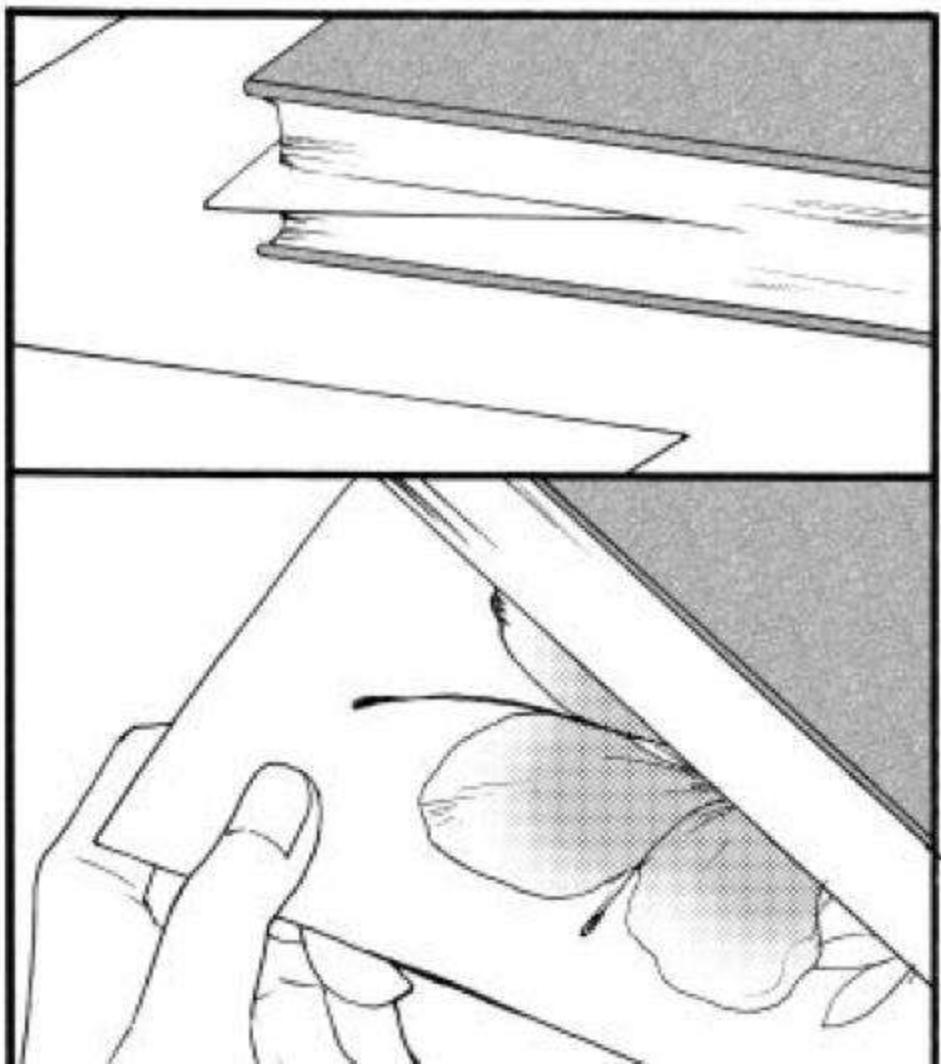
…そうか
恋をしたのは
これが最初
恋慕とは
慈しみと違い
かくも恐ろしい

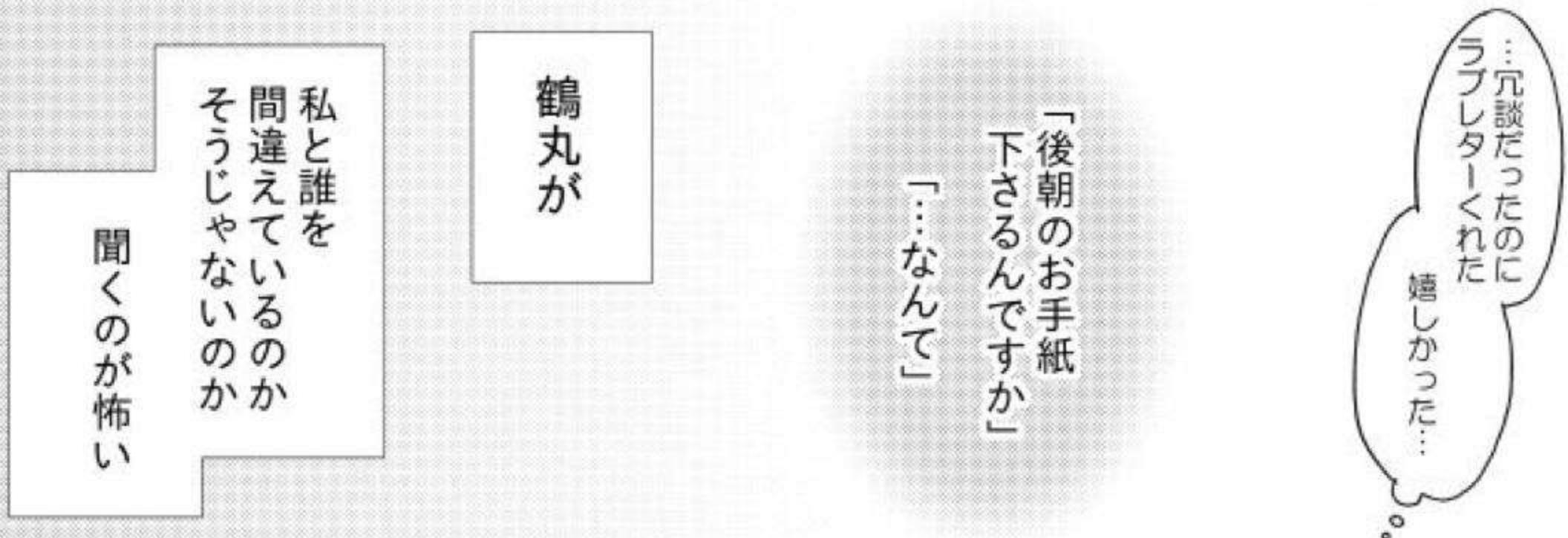


だから
主が一人で我慢しないように
ちゃんと見ていてあげてよ

多分
どこかずつと
自分は最後は
一人なんだって
思つてた

…主はさ
黙つて一人で
決めちやう所があるんだ
一人が長かつたって
言つてた
ご両親も大事なお兄さんも死んじやつてる





いつか かならず お別れがくる



最初から思ってたじゃない 今だけでもいいって

分かってたのに
どんどん
好きになつて

人のそれとは
違うものかも
しれないのにも

私は

小夜にあんなこと
言わせたい
わけじゃなかつた

どうなさつたの
です？

…主？

…るじ

すみません一期
なんでもな…

私こそ
申し訳ありません
勝手に

ですがどうか
隠さんで下さい

泣いて
おられるの
ですか？







大丈夫

…ご自身の信念と
誇りを
固く貫いた

ご立派な
最後でした

私は貴方の事を
託しながら

逃げずに
在つたのです

私はもう

大丈夫だから

…今も誇りに
思っています

今宵
主のお部屋に

主からです

…おい一期

これは

鶴丸殿

これを

こうなった以上
主の足元が
揺るがないよう
深く愛するのが
貴方のお役目

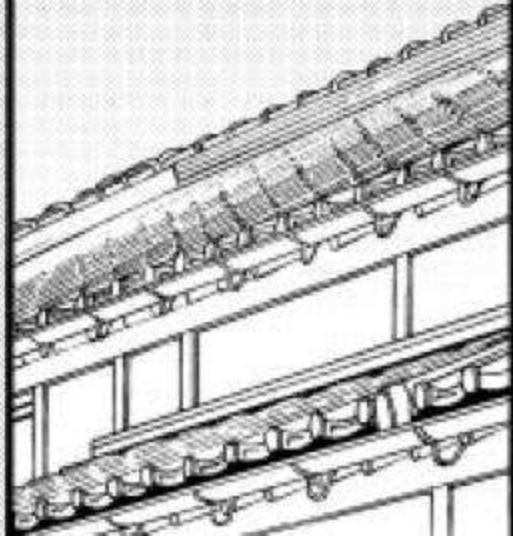
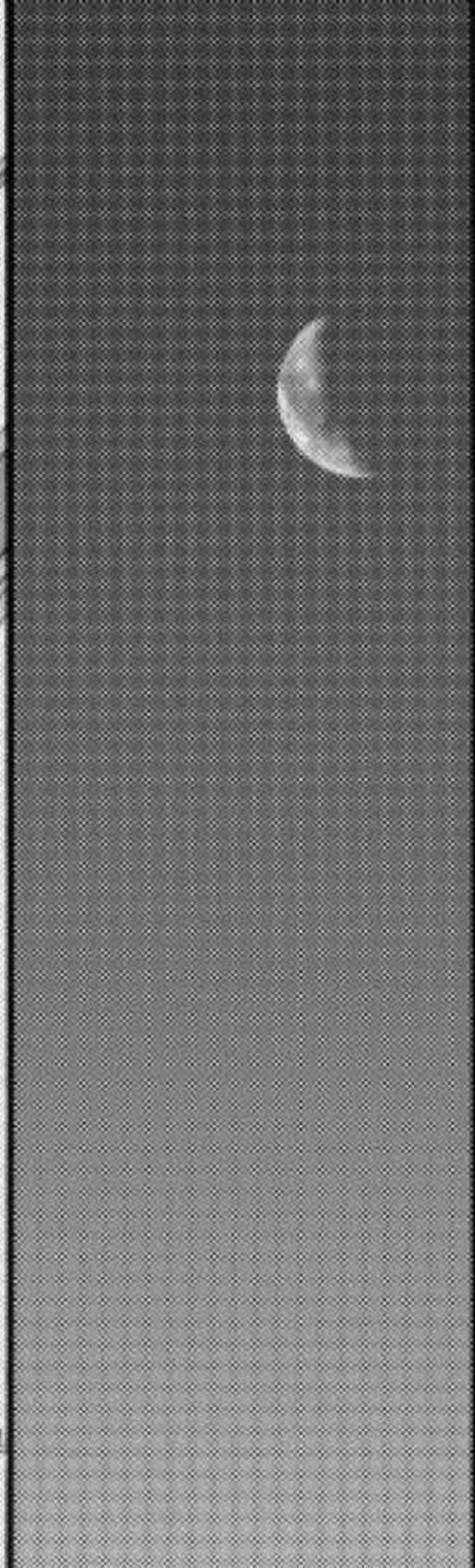
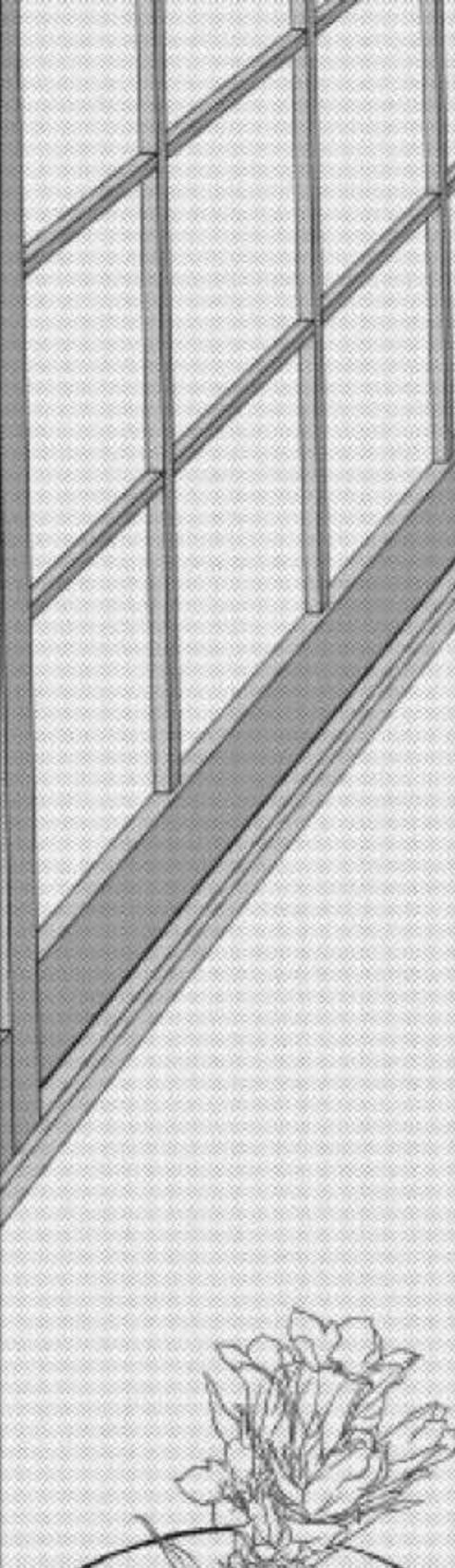




先の事件で表立つては格好いいことを言つていたけれど

主を守れなかつたと影で一人悔やんでいたではないか

















きみは

戦の終わりと共に
俺から離れる
つもりだったのか

鶴…つ

まだ

良く

俺はきみを
離す気はない

きみが死ぬと
云うのならば
魂ごと
連れ去つてやる

あつ

薄々そんなことじや
ないかと思つていた

だが

きみが役目を
終えるなら
人の輪から
外してしまおう

だめ

勝手だろう

あ
待つ

そうだ

でももう
今までのようく悠長に
きみを待てなくなつた

俺は

ここで

「きみ」に
恋というものを
してしまつた

「綺麗な神様」

もしかして

『私の』

「白い」

あの

夢は

…そんな顔

しないで
ください

まだ

よく

飲み込めて
ないけど

いつかの

私

なの
だろうか

悲しいのは
いやです……
鶴丸が

同じ気持ちで
いいん
ですよね…?

人である
私には

全てを理解することは
きつと
できないのだろう

もう
あなたが
好きなの

さむくない

…ああ

こんなこと
言うべきか
迷つていた

まいったな…
俺らしくない
話をした

すまん

きみに
怖れられるのが
怖かつたのかも
しれない：

どうして
怖くないんだろう

不思議な
気持ちだった

違うそ
うのこ
とがさ
つきま
であん
なに怖
かつたの
に

私









はー

けー

まー

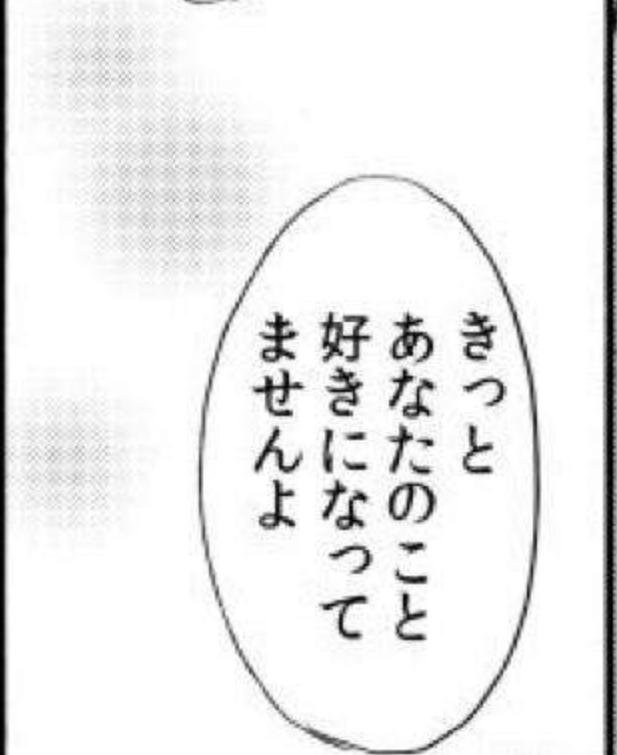
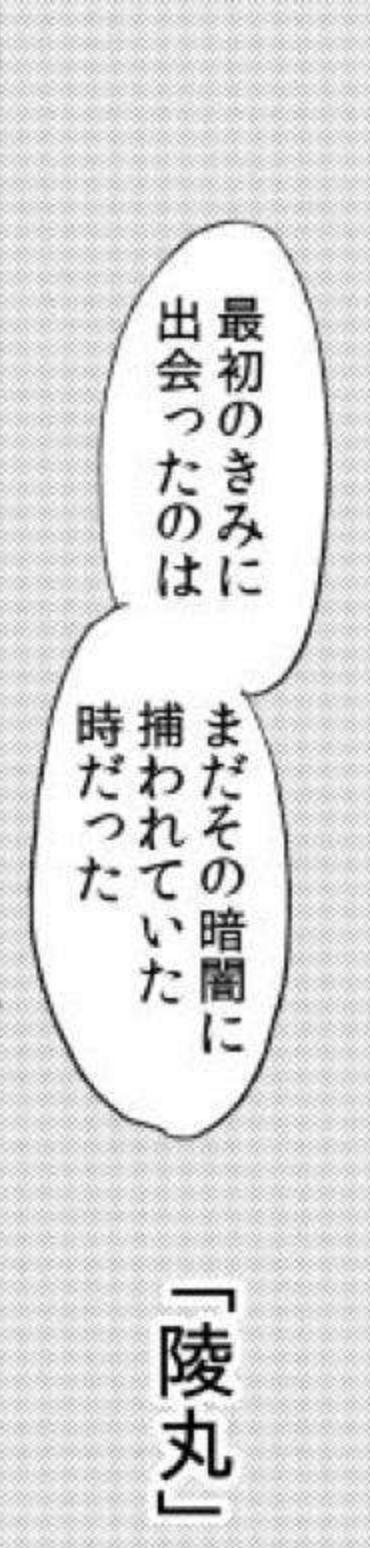
幸せな気持ちになつたの

初めてだ

生まれて

朽ちることを
是としたんだ

…俺は
一度







うたつていた

私は
白い所で



夢を見た

その日

ありがとう

...

兄の事は
忘れられない
けれど

私がいま
笑えるのはね

鶴丸国永様

小夜がいて
くれるからでも
あるのよ

あなたの声を
聴いてから

ずっと
あなたが寂しくないよう
うたつていたの

…あなたの物語と

私の記憶と

背負うんじやなくて
分かち合いながら
戦の終わりまで

共に在つては
くれませんか



わたしの

白い

綺麗な神様

もう
離れない

